

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>昨年の外部評価でのアドバイスを参考に、もっと利用者様やご家族にとって身近に感じられ、理念を踏まえて実践する職員が振り返りやすいような理念にと見直しをし、ご家族へのアンケート、利用者様に日頃の会話の中から意見を頂き、職員全員からアンケートを実施し、話し合って平成21年4月1日より新しい理念となった。今後も理念を私たちの基本となるよう、意見交換を現場で適宜に行い、より自分たち(利用者様と職員)のものとなるよう、毎日のケアの実践に活かされるように進めていきたい。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>昨年理念を全体で見直し、入居者には日々の会話の中から、ご家族、職員にアンケートを実施し、毎朝、意識して日々のケアに実践できるよう全ユニット合同でのミーティングをとおし取り組んでいる。ホームの理念は入社時研修や全体会議で各自説明を受けている。今後も理念をかかげただけで終わらないよう実際に活かされてこそ意味があるものと管理者と職員が理念を共に意識しながら話し合い、実践が理念にもとづいたものになるよう日常的に取り組んでいきたい。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>パンフレットに記載、待機者、入居の際にお渡しし、説明し同意を得ている。運営推進会議や地域の会議等でホームの取り組みを伝えたり、ホームとして地域の現状を理解し、地域の中で暮らし続ける為の取り組みについて、現状と今後について意見交換しあい取り組んでいる。</p>	<p>○ 管理者は運営推進会議に地域の人が多く参加できるような関係作り又入居者の地域活動への参加の機会の構築を目指しており我々も共に意識を深めていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>職員は通勤時、ゴミだし時、散歩時に近隣住民と挨拶を交わしている。また花や畑を見せていただいたり、届けてくださることもある。回覧板にグループホームの役割、相談窓口であること、取り組み等を紹介する機会取り入れて頂いている。また防災訓練に近隣の方がいざというときに助けられるような、地域との連携を強化できるよう防災訓練に参加してもらい取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5 3 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の 一員として、自治会、老人会、行事 等、地域活動に参加し、地元の人々 と交流することに努めている。	町内会に加入し回覧板や町内の会合に出席することで情報交換を行っている。町内会の行事、地域の事業所の行事や盆踊り等へ毎年参加することで、交流の機会になっている。また近郊在住の職員採用が多く、職員の繋がりから増えた地域交流もある。昨年は地域の福祉部長さんのお声で8月に地域のいきいきサロンと児童会館の「流しそうめん」に参加させていただいた。		
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所 や職員の状況や力に応じて、地域 の高齢者等の暮らしに役立つことが ないか話し合い、取り組んでいる。	入居者の支援を第一に考えつつ、取り組みとして、厚別区社会福祉協議会主催の青葉地区住民に向けた「認知症対応講座」に劇団員として、もみじ台地区では管理者が講師として、地域で認知症の方がより住みやすくなる為の対応の仕方、認知症の方の想い、グループホームも相談窓口であること等をお伝えする機会をいただいた。今後も地域の他事業所や地域の方と情報交換、連携を図っていき、ホームからアナウンスして積極的に取り組んでいきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>毎年全職員に配布し職員の意見を取り入れたり、課題を全体会議で投げかけ、職員全員にそれぞれの意見を求め、話し合っており取り入れている。「運営推進会議を生かした取り組み」についても福祉部長さんが構成員となったり、構成員ではない家族さんにも参加していただいたり、管理者、主任だけでなく運営者や職員が参加することで、より組織の意識強化、また地域との繋がる機会が増えている。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>二ヶ月に1回開くよう努めており、出来ている。今年から、町内会長から、福祉部長にも参加していただいている。より地域の高齢者の実情や取り組みも分かるようになった。また経営者自身が会議に出席するようになり、出席できない時は報告し、出た意見を伝達し運営に役立っている。職員の意見も会議で言えるよう、可能なときはシフト調整し職員も参加している。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>主に管理者が主体となって、札幌市、区担当者、区保健師、社会福祉協議会等と電話や行き来して、随時相談、情報交換し、向上に取り組んでいる。生活保護受給者の方は区の担当者と連絡を取り合ったり、実施指導を通して、センター方式やケアプランを見て頂き現状に満足する事無く更なる向上に努めるきっかけとなっている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者は職員が学ぶ必要性を感じており、全体会議で学ぶ機会を作り、制度について事例と現入居者で利用の可能性のあるケースを伝達したり、職員が閲覧できるように、情報を各ユニットに設置している。また、必要時には制度が活用できるよう準備しており必要に応じて活用できるようになっている。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>身体拘束防止委員会で「高齢者虐待防止関連法」について勉強会を開き、理解を深め職員へ全体会議等を通じて伝達している。また、ニュース等を材料に管理者や主任からその都度職員へ情報を伝えたり、職員のストレスについても抱え込まない、職場の雰囲気作りにも努めている。管理者、一部の職員が「関連研修」に参加しその都度伝達し全体会議をとし報告し虐待防止の徹底を図っている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者は相談から入居準備、入居の流れの中で、また、契約時には読みあわせを行い具体的な説明をしている。その流れの中で理解しきれていない事もあるかと予測し入居後もその場にあわせて適宜説明出来るようにし、理解、納得が得られるよう努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営に関して利用者が直接あわせる会議等は設けていないが、生活の中で、それらに関わる話題、要望等を聞き取りしたり、意見、不満、苦情が出た際も迅速に対応できる体制を整えている。事務所が開放されて、入居者が自由に出入りできるようになっているため、表しやすい。経営側がホームに足を運び入居者の暮らしぶりや職員の雰囲気をごまめに見ていっている。		
14	7 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	入居者一人ひとりが違うように家族もそれぞれである。ホームでの入居者の暮らしぶりや変化を個々のケースに合わせて報告を細やかに行っている。職員の異動については事前にお便りでご家族に知らせ、会えたご家族には職員から挨拶をしたりと適宜行っている。		
15	8 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者、主任が主に窓口となっている。運営推進会議の場や面会、又は必要に応じて適宜連絡し、疑問や意見、不満等がないか汲み取り運営につなげている。また苦情になる前に対応するよう普段の関わりに配慮して、信頼関係作りに取り組んでいる。玄関に意見箱を設置。時々、管理者やホームからアンケートを行っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員には定期的または適宜(主任や管理者の判断)で面談を行っている。運営者、管理者は働く職員の意欲の向上や質の確保のため、事業所の運営や大事な決定事項など適宜伝達し、全体会議や日頃のかかわりから主任や職員からの意見を聞く機会を設けるようにしている。日頃現場で挙げた意見は、主任が管理者に報告している。意見が反映可能かどうかを見極め、運営に役立てている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>行事、お誕生日、病院受診時、避難訓練、営繕等その他必要に応じて職員の配置を通常より多くしている。またその他、入居者の状況に出来る限り対応出来る様臨機応変に対応している。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をして</p>	<p>経営者、管理者は異動や離職によるダメージが利用者の生活に響いてしまうことを理解している。異動の際は慎重に見極めている。経営者は離職を防げるよう、待遇等の見直し、改善、職員への説明等を行っている。また管理者、主任は職員が給与面だけではなく希望を持って安心して働き続けられるような、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。異動があった場合は、異動した職員が会いに来たり、入居者が遊びに行くことで新たな関係作りに努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 10	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20 11	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談時は訪問調査のみならず、事前にホーム見学の機会も可能な範囲で設け内容や情報についてうかがい、出来る限り管理者、計画作成担当者が入居前から関るようにしている。センター方式情報シート等を活用しスタッフへ報告している。また入居以降もかかわり多く細かな内容や情報も記録に残し、申し送って情報を共有しケアに活かしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談以降も入居前までの間のホーム見学や相談を随時受け付け、不安な点についてお話を伺うなどしている。管理者、計画作成担当者との情報の共有を図り、必要に応じて介護計画に盛り込んでいる。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期対応時には本人のみならず、家族関係等の状況についても可能な限り伺い現状把握に努めている、またケアマネージャーや相談員との面会や電話・書面にて情報交換し、客観的な意見を聞きながら総合的に判断し、別なサービスの情報や提案等の対応もしている。		
26	12 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	リロケーションダメージを考慮しつつ自然に徐々に馴染んで頂けるよう場の雰囲気や他利用者との関わりに気配りし安心して納得してサービスを受けられるよう段階的な計画作成をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
27 13 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	介護する側、される側にならないよう一方的な縦の関係を脱し人として共に過ごし学び支えあう関係を築くよう喜怒哀楽も受け入れ孤独になりがちな利用者の安心と安定を生み出し本来の個性や力、どのように暮らしていきたいのか意向を汲み取れるような関わりを心掛けている。	○	日常のさりげない会話の中で料理の味付けや子育ての相談等、長く長く生き抜いてきた人生の先輩としてアドバイスを受けたり役割を担い生き活きとされている様を共感し日々教えられる事に感謝の気持ちを伝え支えあう関係を今後も継続して行きたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員と家族間でも支援しているされているという一方的な縦の関係にならない様、面会時や月1回のお便り時のかかわり以外にも電話で近況報告や行事への参加・お手伝い等のホーム側からの働きかけを多くし、負担がかからない程度に共に支えあうホーム作りに努めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時はタイミングを図りながら近況報告をし、本人と家族が落ち着ける場所で一緒に過ごせるようにしている。様子等で心配な事があれば出来る限り具体的な説明、ケアの変更も取り入れ、よい関係が継続出来るようにしている。職員はあくまでも本人と家族の支援者であり、これまでの両者の関係を踏まえつつ今後よりよい関係を築いていける為の支援に努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、その関係を断ち切らないよう努めている。ある利用者は昔の同僚との通信を継続しており大切な人との交流を図り続けられるよう立案し支援している。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者間の関係性を考慮し居間の席を決めたり、活動時間をコントロールしている。職員は利用者同士が共に支えあって暮らしていく事の大切さを理解し利用者間の関係の理解に努め利用者が孤立せずに共に暮らしを楽しめるよう支援していく事を心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が完結したご家族へは説明や言葉かけをしている。協力病院に入院して退去された場合、お見舞いに行く等関わりを持つようにしている。又、入院し知人や関係者を連れてホームに見学にくる方もいっらっしゃる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	14 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人一人の思いや希望、意向等の把握に努めている。認知症でも自己主張が乏しくても、表情や仕草、さりげない会話の中で思いを汲み取り、本人の視点にたちスタッフ間で意見を出し合い取り組んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人が安らかに有する力を発揮しながら自分らしく暮らして行ける様支援するために利用者個々の歴史やサービス利用に至った経過を本人や家族を通じ把握に努めている。又、毎年更新しているアセスメントツール(センター方式)情報シートを用い更なる情報収集に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者の部分的な問題や断片的な情報に捕われずに、一人一人の1日の暮らしの流れに沿って本人の状況を看護師とも積極的に連携を取り総合的に把握できるよう心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
36 15 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護する側にとっての課題ではなく本人がよりよく暮らす為のケアのあり方について家族や本人の意向を第一に。スタッフ全員で記録しケース担当者が経過表にピックアップしモニタリングを繰り返し更新月にはフロア会議にてサービス担当者会議を開催しプランナー一つ一つを評価して、介護支援専門員の管理のもと、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
37 16 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人や家族の要望や変化に応じて又、定期的な期間に捕われず毎月最低1回モニタリング会議を開催し現場で実践可能な9人のバランスを考慮した、きめ細かいケアを軸に評価し見直しながら取り組んでいる。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やけあの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	介護記録は入居者一人ひとりに即した書式を作成し活用、書式についても状況に即し変更している。日々の記録は、やった事を記すだけにならないよう本人を身近で支える職員しか知り得ない事実やケアの気づき生き生きと具体的に記録するよう心掛け個別介護記録へ記録し一定時期で介護経過として取りまとめモニタリングや評価に活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 17 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者や家族の状況や意向は固定したのではなく常に変化すると念頭におき、その時々 の本人と家族の状況や要望と向き合い暮らしを守るために、その場面場面での柔軟なケアを心掛けている。また、地域の事業者と連携を図り、在宅で暮らす方の協力が出来ないかどうか、可能な範囲で話し合ったり、行事にお誘いしたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	個別的なボランティアはいないが、福祉部長を通じて、区役所の方を通じて歌ボランティア、地域の野球少年団が行う廃品回収へ協力したり、職員を通じて向かいの小学校の生徒がよさこいの踊りを披露しに訪問、児童会館からはハロウィン仮装訪問をうけその際は地域担当の警察官も同行訪問していただき地域の様々な機関との双方向で協力が増えてきている。また地域の少年消防クラブ員がクリスマスに訪問捨て下さる等、生活を潤して下さっている。ホームの取り組みを理解して、入居者様の意向に添ったボランティアさんが一人でも多く増やせるよう、今後も進めていく。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域のサービス事業者や一部の入居者の担当だったケアマネ、生活支援員とつながりを持ち互いに協力し合える関係にあり、お誘いを受け企画に参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	利用者個々の権利擁護や総合的、長期的なケアマネジメントなど事業所のみで解決困難な状況に応じた時には地域包括支援センターと協働できるよう連携を図っており、相談することがある。また、年数が経つにつれ権利擁護事業利用等の検討の必要性が出てきており、地域包括に相談することもある。今後も更に協働して、認知症の方が住みやすいネットワーク作りに努めていきたい。		
43	18 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療が受けられるように支援している。	協力医療機関である聖陵ホスピタルの担当看護師が窓口になり、入居者の状況を把握し、入居者の中には看護師さんと顔なじみの信頼関係が出来ている方もいる。受診時に入居者の体調等を配慮して下さったりと、気軽に相談できる関係を築いている。また、入居者、家族が納得できるように場合によっては直接往診や、受診にかかわっていただくこともある。入居者の希望に併せており、継続して馴染みの医師にかかれる様、家族と協力して行っている。又、KSデンタルクリニックの歯科医師や衛生士とも顔なじみになってきており気軽に相談できる間柄を構築している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携病院である主治医は認知症の人の医療に熱心で適切な指示や助言をして下さり必要に応じては鑑別診断も可能である。信頼し相談できる専門医療の個別支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関である聖陵ホスピタルの担当看護師が窓口になり、入居者一人ひとりの状況を把握し、入居者の中には看護師さんと顔なじみの信頼関係が出来ている方もいる。受診時も入居者の体調等を考慮して下さったりと、気軽に相談できる関係を築いている。又、昨年4月より医療連携体制による看護師を確保。さらに、入居者一人ひとりに合わせた相談がしやすい体制となった。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	リロケーションダメージを考え本人のストレスや負担を軽減する為、短期間に入院目的を達成しスムーズに退院できるよう病院関係者、本人、家族と充分話し合っており入院した際には職員が面会に出向いたり、家族に同意頂いた方は、ムンテラに同席させてもらい、家族、病院、ホームの方向性を合わせて、退院に向けたアプローチを個別に行っている。また現場職員へ情報伝達し退院時からの取り組みを話し合い、退院してきても統一したケアと細やかな観察が出来て、医療や家族と連携できるよう取り組んでいる		
47	19 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重症化した場合や終末期のあり方について事業所をあげて社内研修に力を入れている。入居者、ご家族の意向、また当ホームで想定できる可能な限りの介護、関係医療機関との連携を相互に確認し、支援を行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度や終末期の利用者に対して安心と安全を確保し、よりよく暮らす為に対応が可能な事、困難な事、不安な事等を職員全体で率直に話し合い事業所として「できること・できないこと」を一つ一つ見極めて行っている。また、医療機関の協力もその都度確認しながら、本人を取り巻くチーム全体がそれぞれの役割を確認し理解して、チームが戸惑うことのないよう、その人の終末期をよりよく支えられるよう話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>グループホームでの生活が、あらゆる手立てを検討しても困難になった場合。利用者の移り住む事へのダメージを最小限にできるようセンター方式というアセスメントツールを用い本人の状況、習慣、好み、ケアの工夫等を伝え、環境や暮らし方の継続が可能になるよう取り組んでいる。ここ4年例はない。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	20	<p>○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人一人の誇りを尊重しプライバシーの確保を徹底している。利用者の尊厳と権利を守るのは基本と考えプライバシーを守り尊厳のある生活支援を心がけている。</p>	
51		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>加齢や認知症の進行に伴い判断能力や希望を表現する力が次第に低下し、うずもれてしまいがちな本人の決める力やその人らしい希望や願いを表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら本人の希望や好みを把握しようと心掛け支援している。</p>	
52	21	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人一人の24時間の状態を把握し、その日の状態や希望にあわせた生活時間が送れるよう工夫している。またどうしても思いに答えられないときはご本人と話し合いを行いその日で可能な状況を検討し実施、体制上の変更が必要であれば、話し合いをもち全体の体制として再検討。今後もより希望に添えるよう更なる工夫改善を行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の好みや意向、持っている力に応じ、理美容は訪問対応で一人一人の個性、希望、生活暦に応じ髪型などを自己決定を元に支援している。服装や身だしなみ・おしゃれを都度季節に合った洋服と一緒に選ぶなど個別に支援している。		
54	22 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	利用者にとって力の発揮や参加、他利用者や職員との関係作りに暮らしの全体の中で重要な位置だと認識しており一連の作業を利用者と共に行い一緒に味わい利用者にとって何よりも楽しみなひと時になるよう献立時、盛り付け、混ぜる作業、味見や下ごしらえ(もやしの芽とり等) 食後の作業(下膳・拭く・片付ける)等を残された能力と意欲に応じ支援している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者が自宅にいる時と同様に趣向品を楽しめるよう様、コーヒーが好きな利用者には希望時にコーヒーを用意したり一人一人の好みや意向を大切にすると共に、それを好まない周囲の利用者への配慮や本人との調整をも支援しようと心掛け本人の希望がある時は可能な限り支援している。喫煙者はいない。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄やオムツをしないですむ暮らしは生きる意欲や自身の回復、そして食や睡眠等の身体機能の向上につながると考え最初からトイレで出来ないと決め付けず可能な限りトイレで用を足し気持ちよく排泄する工夫を試行錯誤し、現在全員トイレにて排泄している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
57	23 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日は定めておらず毎日入浴可能であるが時間は職員のローテーション等の都合で定めている。一人一人の希望に添い（入浴を好まれる方にはより楽しく入浴できるよう工夫し、入浴を好まない方には好まない根拠を探りながら入浴が嫌いなのか？着脱が面倒なのか？声掛けの工夫次第で気分良く入浴する気持ちになってくれるのか必要に応じて立案しながら無理強いせずに取り組んでいる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	1日の流れの中で一人一人が自然に必要な休息や睡眠が取れるよう支援している。本人にとって自然なリズムが生まれるよう環境や生活の過ごし方、関わる側のあり方が本人のリズムを壊していないか確認しながら寝ることだけに注目せず本人の生活習慣等を関係者で検討しながら総合的に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	24 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日々の暮らしのが楽しみや張り合いのあるものになるよう、また潜在している記憶やできる力を最大限に活かして自分らしく暮らせるよう一人一人にあった役割を担い気晴らしや共に支えあっている事を実感できる支援に取り組むよう心がけている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者が日常の暮らしの中で、その人の希望や力に応じてお金を所持し使えるよう支援している。使わなくとも自分で所持できる事で安心したり、ちょっとした買い物で楽しめている。管理方法は500円程度で自室管理で支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は近所の散歩やホーム前のベンチで日光浴をするなどその日そのときに応じて相談し決めている。	○ 近所に歩いていけるお店があったが6月に閉店してしまい、徒歩での買い物の場がなくなってしまった。今後日常的な買い物の機会を継続できるよう、車を活用しスーパーへ行く支援を回数を増やして実施していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないうちに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日常的な活動としては不十分であるが行事企画を通し行き先を相談したりバーベキュー行事では、ご家族と一緒に楽しんでいる。その他ではご家族の面会時に気軽に外出や外泊をしていただいている状況。	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	一人一人の手紙や電話の習慣、希望、有する力に応じて外部との交流を単なる取次ぎだけではなくプライバシーに配慮しながら個別に支援をしている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	本人の馴染みの人たちが気軽に訪ねやすく居心地よく過ごせるよう面会時間の制限なく居室にて、ゆっくり過ごして頂いている。	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会で「身体拘束」について勉強会を開き、理解を深め、「絶対に行ってはならないこと」「介護者都合にしないこと」等、職員へ全体会議等を通じて伝達している。また、拘束することでどのような弊害があるのか、事例やニュース等を材料に管理者から職員へ情報を伝えている。また職員のストレスについても抱え込まない、職場の雰囲気作りに努めている。管理者、一部の職員が「関連研修」に参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
66 26 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中でも鍵をかけられ外に出れない状態で暮らす事の異常性と個々の利用者にもたらす心理的な不安・閉鎖感、家族や地域の方々にもたらす印象等のデメリットを認識し、今までエレベーターを施錠していたが職員全員から意見を募り、話し合った結果、日中のエレベーター開錠を実施している。今後もさらに改善の余地がないか、職員全員で話し合い、鍵をかけることの弊害を認識して取り組んでいく。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者全員の動きやサインをさりげなく常に見守り察知するよう心がけている。本人の状態や気持ちにそって安全できめ細かなケアを行おうと夜間も緊急時に備えもつとも確認しやすい位置にいるように心がけ支援している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物や薬は利用者の安全を確保する為、刃物を洗いかごに入れないように気を付け身近な所に置かないよう気をつけている。洗剤等は、利用者の状態を十分に把握した上で一律に排除するのではなく臨機応変な取り決めを行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故や災害等を未然に防ぐための方策や一人一人から考えられるリスクや危険を検討し事故防止に努めている。ヒヤリハット報告や事故報告を職員の危機感の維持・向上の為に用い事故の再発防止や未然に防げれるよう具体的にカンファレンスしている。		
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	利用者の身体状況の急変や事故発生時にも慌てずに確実かつ適切な行動がとれるよう職員全員が応急手当について定期的に研修を行い実際の場面で活かせる技術を身につけている。社内研修や厚別区GHで協同して、救命救急講習を研修に取り入れている。また、グループホームで起き易い急変、事故発生時を具体的にシミュレーションした「緊急時の対応」の研修も独自に行っている。職員も時間が経つと不安になりやすいため、今後も定期的に研修を取り入れ、継続して行く予定である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
71 27 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、 昼夜を問わず利用者が避難できる 方法を身につけ、日ごろより地域の 人々の協力を得られるよう働きかけ ている。	一人一人の利用者の状態を踏まえて昼夜(特に夜間)を想定した避難訓練を 行い、いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるよう年に2回以上行って いる。又、職員だけの誘導の限界を踏まえて地域の人々の協力を得られる よう地域の防災委員となり働きかけている。昨年は地震を想定した訓練を行っ た。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し 合い 一人ひとりに起こり得るリスクにつ いて家族等に説明し、抑圧感のない 暮らしを大切にされた対応策を話し 合っている。	利用者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援する為に一人一 人の現状と予測されるリスクや、その対策を家族等と率直に話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の 発見に努め、気づいた際には速や かに情報を共有し、対応に結び付け ている。	毎日のバイタル測定結果をグラフ化し体調管理している。また体調の変化の みではなく気分グラフ等も活用し生活・言動の変化について等詳細まで主治医 へ往診時に報告しており職員は、一人一人の普段の様子一人一人のいつもを よく知っており常に変化や異常の発見に努めている。変化や異常の兆候に気 づいたら速やかに報告しあい早期対応に結びつく行動が日常化できており全 スタッフが看護師への連絡、病院への上申を行っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用してい る薬の目的や副作用、用法や用量 について理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師による居宅療養管理指導を受けて薬剤についての知識等について2週 間に1回相談をおこなっている。また内服変更時はその詳細について記録し変 化がないか期間を区切って評価相談している。内服方法もタブレットを使用し たり薬はいを使用したりと一人ひとりに合わせた方法をとっている。又、服薬方法 の検討を重ね統一した援助を根拠をもって出来る様に書式化しキッチンに掲示 取り組んでいる。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影 響を理解し、予防と対応のための飲 食物の工夫や身体を動かす働きか けに取り組んでいる。	献立時には食物繊維の多い食材の使用を心がけている。また排便確認を行い 記録し定期的に排便確認している。又、便秘がちな高齢者に対し個々の便秘 の原因をさぐり薬剤に頼る前に食物繊維を豊富に含んだ食材の工夫をしメ ニューに便秘予防の為に野菜や果物、海藻などを、繊維質の多い卵の花や煮 豆、ハチミツ等、糖質で便を柔らかくするよう個々の必要性に応じて食事委員 を筆頭に工夫し水分補給にも努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	本人の習慣や有する力を活かしながら又、体調を考慮しながら毎食後うがいのみの方、歯ブラシを手渡しする方、全介助の方、義歯洗浄剤を食べられてしまう危険性のある方は義歯をお預かりしたり、どのような支援をすると危険が伴わずに口腔内の清潔が維持できるかをアセスメントし行っている。		
77	28 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	カロリーの過不足や栄養の偏り水分不足が起こらないよう各ユニットから食事委員を選出し利用者一人一人が暮らしの全体を通じて必要な食事や水分がとれるよう主治医と相談の上、栄養補助飲料を併用し援助している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入社時研修にて説明し資料を各自渡している。また管理者や事故対策委員が情報とマニュアルをファイリングいつでも見られるように配置しトイレやふろ場には消毒チェック表を掲示している。又、ノロウイルス対策もチェック表を作成し1日3回消毒している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材はほぼ毎日、新鮮な保冷状態で届いており、調理器具等は毎夕漂白剤に漬け置きしている。又、担当者を設け週に1度のペースで冷蔵冷凍庫の消毒を徹底し暮らしの場で清潔・衛生を保つための管理方法を取り決めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	利用者や家族、近郊の住民等の視点に立って違和感や威圧感がないよう玄関前にはベンチや季節の花が楽しめるようなプランターを置き玄関周りや建物周囲の工夫をしている。		
81	29 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	利用者一人一人の感覚や価値観を大切にしながら色、光、陰、広がり、音、におい、空気の流れなどに配慮をし認知症の方々にとってストレスとなる刺激に注意しながら居心地のよさ、心身の活力を引き出すために旬の食材を献立に取り入れたり、フロアの模様替えを行い季節感を感じれる様支援している。		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	全員で集まれる食卓、2・3人で過ごせる和室で、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
83	30 <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居心地良く安心して過ごして頂ける様、入居時に使い慣れ親しんだ物を持ち込むよう本人や家族と相談し仏壇やたんす小物等、を持ち込んで頂いている。又その管理も支援している。		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	トイレには消臭剤や消臭スプレーを配置。フロアに空気清浄機・加湿器湿度計を設置して、適宜換気を行っている。居室の広さや窓の位置によって気温差があるためスタッフが適宜管理し援助している。		

(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人の身体機能の状態に合わせた危険防止の為、手すりの工夫や段差部分の工事を行っている。又、食卓の位置など生活の場として どの位置だと自立できるかなどを考慮して決めている。浴室では各利用者のニーズ別に安心して入浴出来る様、補助具を使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	失敗させないケアを目指し認識間違いや判断ミスを最小限にする環境を整えるよう出来る事出来ない事、判る事判らない事をセンター方式を用いアセスメントしている。トイレには便所 各居室には個別にネームや写真等を使用し食卓テーブルには名前シールを貼り判り易くしている。失敗を阻止できなかった場合はダメージを最小限に留められる様に支援している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関や周りにはプランターやベンチなどを設置し天気の良い日には日光浴や気分転換を楽しんでいただいている。利用者の馴染みの暮らし方や希望、有する力を活かすため事業所には小さくも畑があり窓から小学校の校庭を眺める事が出来る。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	<p>職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる</p> <p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>アセスメントツール(センター方式)を用い気付き増えてきている</p>
89	<p>利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある</p> <p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>作業を手早くし関わられる時間を増やすよう徹底している</p>
90	<p>利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている</p> <p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>ライフヒストリーを大切に利用者のペースを大事にしている</p>
91	<p>利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている</p> <p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>散歩や役割を担った後に生き生きとされている</p>
92	<p>利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている</p> <p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>行きたい所すべてではないが満足されている様子</p>
93	<p>利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている</p> <p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>2週に1度の往診をベースで安心されている様子</p>
94	<p>利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている</p> <p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>満足まではいかないが納得されている</p>
95	<p>職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています</p> <p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>定期的に近況報告をして意向を確認している</p>
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>町内会長さんや福祉部長、少年消防団や児童会館の親子、近隣の方々が推進会議や行事に尋ねて来ている</p>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p> <p>少しずつだが増えている</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>同じ目標を持ち働いている</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>おおむね満足されていると思う</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>おおむね満足されていると思う</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

ゆったり 笑顔で 楽しく をモットーに、入居者様の家族や大切な人とのつながりを大切に、一人一人が笑顔で楽しく暮らせる様 又、生きる喜びを感じ 明日への希望が持てる様、職員全員が利用者主体に人生の大先輩として尊敬の気持ちを持ち、時には人生相談をしアドバイスを受ける等、支援している立場に立つのではなく一緒に生活する者として接する様チーム全員で取り組んでいます。